慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　１回20日発行

三四会ホームページ

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

令和５年度 慶應義塾大学医学部三四会定例評議員会開催

速報 次期医学部長に金井隆典教授（内67回）が再任

令和5年7月3日に開催された教授会で信任投票を行った結果、内科学（消化器）教室の金井隆典君が次期医学部長に選任された。

次期医学部長の任期は、2023年10月1日から2年間となる。

三四会奨励賞受賞者たち。左から、古梶副会長、武田会長、井ノ口美香子教授（山田君の代理）、守山君、茂田君、田村君、松田君、櫻井君、松本病院長

去る令和5年6月17日（土）信濃町キャンパス2号館11階大会議室で令和2年度三四会定例評議員会が開催された。評議員総数は241名、参加者は160名（内委任状提出108名）であった。議事録署名人として、久保内光一君（55回）、西村正智君（63回）が指名された。

長倉和彦議長（55回）の開会宣言に続き、令和4年度物故会員94名への黙祷が捧げられた。

審議に先立ち、武田純三三四会長（52回）より挨拶があり、令和4年度の活動の概要について説明された。本年3月に北里大学の外科学教室と合同で比企能樹先生の偲ぶ会が開催された。全国の支部会も少しずつ開催が増えているが、是非以前の開催ペースに戻して欲しい。その他、全国支部長会、医学部新年祝賀会、104回生白衣式、102回謝恩会、KAA-Jrなどが報告された。会員管理システムが刷新されたことを機に、三四会のアクティビティをいかに上げるかという課題に取り組む方針が示された。

第1号議案である令和4年度三四会事業報告が古梶清和副会長（63回）により行われた。

現在の会員数は9115名（塾卒業者6184名、他大学出身者2931名）であるが、塾卒業以外は減少しており、最近2年は入会者がなかった。ICT活性化の取り組み、各地の三四会支部の活動、全国支部長会、北里賞・北島賞・三四会奨励賞、HPリニューアル、白衣式、卒業記念品などについて報告された。また、深川和己理事（68回）より、赤倉山荘の利用の状況、慶應赤倉アカデミー（KAA）、KAA-Jrと連合三田会について報告された。

第2号議案である令和4年度三四会会計決算が渡辺貢純副会長（64回）より報告された。

会費納入額は、やや減少した。支出としては、新たに名簿データ整備費用として400万余り、全国支部長会議費として100万ほどが加わった。特別会計（赤倉山荘、三四会館建設、医学部援助金）については変動はなかった。結果として550万ほどの黒字であった。

第3号議案である令和4年度財産目録、会計事務処理及び財産管理監査報告が松本純夫監事（52回）より行われた。会計および会計以外の業務は、法令および定款に従い適正に行われたと監査報告された。

第1～3号議案について審議が行われた。質疑は特になく、原案通り承認された。

第4号議案である会員管理システムについて、武田純三会長より説明があった。新しい会員情報管理システムでは会員自身で情報の編集が可能となる。一斉メール配信、会費の納入、動画の配信もできるなど機能を充実させた。クラス、支部評議員には是非連絡に役立てて欲しい。未登録の会員（40数%）への登録推奨に関して各評議員に協力要請があった。また、池上幸憲理事（82回）より、電子掲示板（卒業回数・支部会での活用方法）について追加説明があった。

第5号議案である令和5年度評議員会議長及び役員の選任。はじめに長倉和彦議長（55回）より次期の理事、監事、評議員会議長候補者が紹介された。続いて、評議員会議長、理事および監事選考委員会の議長である島崎美奈子副会長（61回）より、選考過程について説明があった。選考結果は5月の理事会で会長に答申したことが報告された。

第6号議案である評議員会副議長の指名が長倉和彦新議長（55回）により行われ、星野健君（63回）が指名された。

第4～6号議案について審議が行われた。質疑は特になく、原案通り承認された。

新たに指名された武田純三三四会長（52回）より挨拶があり、会長の選任した理事、新体制、役割等についても説明があった。支部担当・クラス評議員担当・相当担当として各理事を配置するほか、編集委員会・HP委員会・ICT強化委員会・名簿作成の4組織で「会員情報管理システム」を有効利用すると報告された。その他、寄付・ふるさと納税、評議員（教室同窓会、支部、クラス）と各組織の活動の活性化を推進したいと抱負が述べられた。

第7号議案である副会長の指名が武田純三会長（52回）により行われた。島崎美奈子君（61回）、古梶清和君（63回）、渡辺真純君（64回）が副会長として指名された。ただちに審議が行われ、質疑は特になく、本議案は承認された。

第8号議案である令和5年度三四会事業計画が島崎美奈子副会長（61回）より示された。会務、研修会の開催などの他、慶應赤倉アカデミー（KAA）、KAA-Jr活動、本医学部学生に対する支援、全国支部長会、およびその他の事業計画に関して、開催日程などが説明された。

第9議案である令和5年度三四会会計予算が渡辺貢純副会長（63回）より示された。収入は例年通りを予定している。会費収入も変わらず、支出についても例年通りであるが、昨年あった名簿データ整備費はなくなり、代わってホームページ改装費を400万とした。会議費では全国支部長会費を昨年より増額した。事務費、特別会計は昨年と変わらない。340万ほどの黒字を予定している。

第8～9号議案について審議が行われた。質疑はなく、原案通り承認された。

議案審議終了後、参加評議員に意見を求めた。船曳孝彦評議員（40回）より、病院設備（障碍者用スペースの駐車料金、病院玄関付近の屋根）について改善を求めると意見があった。吉野肇一評議員（44回）より、ハイブリッド評議員会の恒久化、名簿の索引の改善、医学部新聞における複数点での改善の要望が提示された。会員情報システムなどに関する質問には、武田純三会長より説明があった。その他については7月以降の理事会で検討を予定していると回答された。

次いで医学部・病院報告があった。金井隆典医学部長にかわり、門川俊明理事（70回）より、医学部の現状、近年の教育カリキュラムの改訂、入学試験・学費の問題、奨学金などについて報告された。また、COI-NEXT、WPIについても紹介された。松本守雄病院長（63回）より、病院のグランドオープン、コロナ対応と通常診療の両立、特定病院機能評価の受審、AIホスピタル事業、医療連携の推進、予防医療センターなどについて説明があった。また、慶應義塾の財政を支えるための港区ふるさと納税への寄付についての理解と協力が求められた。

三四会社会功労賞・奨励賞各賞の選考について古梶清和副会長（63回）より報告された。社会功労賞の受賞者はなし。奨励賞は、新選考基準のもとで8名の応募者の中から6名の受賞を決定したことが報告された。引き続き、武田純三会長より奨励賞受賞者に対して表彰が行われた。

星野健副議長（63回）による閉会の挨拶の後、評議員会は閉会となった。評議員会終了後、ザ・パークにて情報交換会が行われた。

令和元年以後4年ぶりの現地開催でした。一同に会して意見交換することの意義を改めて感じさせる1日でした。

（評議員会議長　長倉和彦　55回）

令和５年度三四会奨励賞受賞者

臨床分野

1. 田村　亮太（脳神経外科学　89回）
「Gene therapy using genome-edited iPS cells for targeting malignant glioma」

2. 松田　　諭（外科学（一般・消化器）　87回）
「Real-world evaluation of the efficacy of neoadjuvant DCF over CF in esophageal squamous cell carcinoma:propensity score matched analysis from 85 authorized institutes for esophageal cancer in Japan」

3. 茂田　啓介（泌尿器科学　89相当）
「難治性尿路上皮癌における癌代謝リプログラミング機構の駆動メカニズム解明と新規治療法の開発」

4. 山田茉未子（臨床遺伝学　90回）
「Diagnosis of Prader-Willi syndrome and Angelman syndrome by targeted nanopore long-read sequencing」

基礎分野

1. 櫻井　政寿（内科学（血液）　86回）
「新規ヒト造血幹細胞生体外増幅技術の開発」

2. 守山　英則（内科学（循環器）　90回）
「Omega-3 fatty acid epoxides produced by PAF-AH2 in mast cells regulate pulmonary vascular remodeling」

第8回 健康医療ベンチャー大賞 キックオフイベント開催

2023年6月9日、慶應義塾大学医学部主催のビジネスコンテストである健康医療ベンチャー大賞の第8回キックオフイベントが三井不動産日本橋GLOBAL LIFESCIENCE HUBにて開催されました。健康医療ベンチャー大賞は、慶應義塾学内での知財の産業連携事業の一つとして、健康医療分野における産業連携に対する抵抗をなくし、積極的に社会に還元していく基盤・風土を作ることを目的としています。

今回第8回より、より専門性の高い審査のため社会人部門を解体し、事業内容の分野別にリーグ制で開催することになりました。それを記念し、創薬・SaMD（Software as a Medical Device医療機器プログラム）リーグのメインスポンサーであるLINK-J様と共催し、領域に精通している先駆者の先生方を迎えてのトークイベントを行いました。

過去優勝チームによる進捗成果発表ではOUI Inc.の清水映輔先生、株式会社PerroptoCureの大槻雄士先生に登壇いただきました。海外展開や、プロダクトの汎用性を拡大することなど、ベンチャー大賞優勝からの事業の発展について発表いただきました。パネルディスカッションでは、株式会社CureAppの佐竹晃太先生、慶應義塾大学医学部名誉教授／株式会社Heartseedの福田恵一先生をお呼びし、慶應義塾大学医学部整形外科の中村雅也教授をモデレーターとして、ベンチャー創業期のマインドセットや苦労したこと、今もなお一貫する思いなどについて話していただきました。

6月末より第8回の出場チームを募集しております（詳細はQRコードをご覧ください）。

引き続き、本学の産学連携を盛り上げるべく活動して参りますので皆様の応援のほどよろしくお願いいたします。

（健康医療ベンチャー大賞実行委員　大岡令奈　96回、畠山裕基　106回）

筋萎縮性側索硬化症（ALS）研究加速プロジェクト
「基礎・臨床融合による神経難病研究：ALS克服に向けた研究の加速を」
クラウドファンディング達成のお礼

生理学教室は、2023年4月26日から6月23日にかけて、筋萎縮性側索硬化症（ALS）研究加速プロジェクト「基礎・臨床融合による神経難病研究：ALS克服に向けた研究の加速を」についてのクラウドファンディング（CF）を実施いたしました。当該CFは慶應義塾初の試みであり、当教室、義塾、ならびにREADYFOR社一体となって、手探りの中行って参りました。その結果、目標金額を大きく上回る約4500万円のご寄付を賜ることができ、無事にプロジェクトを成立させることが叶いました。これも偏に、三四会員の皆様の温かいご支援の賜物と存じます。紙面をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

本プロジェクトが特に対象とするALSは、運動ニューロンが障害されることで全身の麻痺が進行し、2-4年程度で呼吸筋麻痺により死に至る神経難病で、国内に1万人程度の患者さんがおられます。しかしながら、既存の治療薬による効果は限定的で、根本的な病態の解明ときらなる治療薬の開発が急務となっています。

したがって本プロジェクトでは、ヒト生体試料、iPS細胞を用いた3次元臓器モデルやAI／自然言語モデルといったバイオインフォマティクスを駆使して、基礎研究データと臨床研究データの統合解析を行うことにより課題を解決し、ALS全般に対する理解度を深め、より多くのタイプのALSに対する革新的な治療法の開発を目指します。

さらに、ALS患者さんの臨床情報や生体試料を用いてリバース・トランスレーショナルリサーチを実施することで、ALSの病態に関わるバイオマーカー、および臨床試験の効果を判定するためのサロゲートマーカーの開発を進めます。

皆様に頂きましたご寄付は、ALS研究を発展させていくための費用（臨床応用を見据えた基礎研究の強化）として、大切に活用させて頂きます。

これからも変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

（生理学教室　岡野栄之　62回）

慶應義塾医学部新聞　投稿規定

慶應義塾医学部新聞は、三四会員であればどなたでも投稿いただくことができます。

【教授・理事長就任】
・本文文字量は800字程度＋顔写真（JPEGデータなど）をお送りください。

【受賞】
・本文文字量は400字程度＋顔写真（JPEGデータなど）をお送りください。

【今月のサイエンス】
・インパクトファクター10.0以上のジャーナルに掲載された論文であること。
・筆頭著者、または責任著者のどちらかに三四会員がいること。
◎上記条件を満たした論文のうち数本をセレクトの上、こちらから解説文を依頼します。

「クラス会」「支部だより」「著書紹介」「読むべき３冊」「異能の人々」なども募集中！

お送りいただいた記事につきましては、順次掲載していきますが、紙面の都合により掲載号が遅くなることがあります。ご了承ください。

慶應医学部新聞編集室メールアドレス
sansikai-editor@mediproduce.com

2022年度 ベストティーチャー賞・医学教育貢献賞

2023年6月19日に開催された医学部教授会において、2022年度Best teacher awardおよび医学教育貢献賞（Outstanding teacher award）の表彰式が行われ、Best teacher awardの受賞者を代表して、野村彩乃助教、医学教育貢献賞の受賞者として安藤崇之助教に表彰楯が授与された。

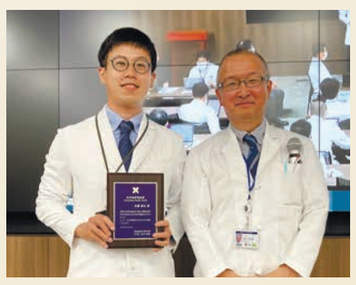
医学教育貢献賞は、毎年、各学年の学生投票により選出されるBest teacher awardの第1位を3回以上受賞した教員に贈られる賞で、今年度は新たに1名が該当となった。

医学教育貢献賞を受賞した教員は、翌年度以降、Best teacher awardの選出対象からは外れるが、今後の医学教育を担う若手教員に対する模範として活躍することが期待される。

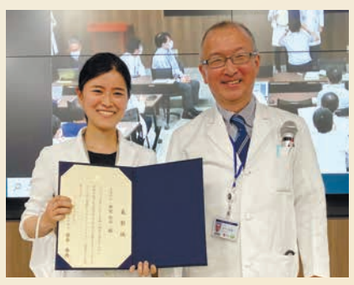
【2022年度Best teacher award第1位】

第1学年	医学部（日吉）	藤猪　英樹　教授
第2学年	医化学教室	末松　誠　名誉教授
第3学年	内科学（リウマチ・膠原病）教室	近藤　泰　助教
第4学年	法医学教室	藤田　眞幸　教授
第5学年	総合診療教育センター	安藤　崇之　助教
第6学年	皮膚科学教室	野村　彩乃　助教

【医学教育貢献賞】
〈〉内はBest teacher award第1位の通算受賞回数
総合診療教育センター　安藤　崇之　助教〈第5学年：3回〉



医学教育貢献賞を受賞した安藤崇之助教



第６学年で第１位となった野村彩乃助教

鑑賞知来

この3年、我々は、歴史に残るコロナパンデミックで多くの困難を経験した。コロナが流行の兆しを見せた2019年、僕はスイスに留学中だった。スイスには大学と行政の結びつきが強く、地域のPCR検査は大学が全て担った。さまざまな問題もあっただろうが、スイスのシステム構築は迅速だった。

日本に帰国後は東京都済生会中央病院で勤務した。日本ではシステムの構築に時間がかかっていたが、医療には「ハート」が溢れ、献身的に患者を診療・看護し、コロナに立ち向かった。時には意見の違いから大議論となったが、皆、患者の為にという熱い思いは同じだった。

僕は両国での経験を通じて「リーダーシップ」、「決して諦めない熱意」、「互いを尊重する心」の重要性を感じた。慶應義塾大学では海外にいる卒業生と基礎・臨床の垣根を超えて連携し、コロナの病態解明のため大規模な研究を行なった。これは本学が国際性豊かな大学だからこそ成し得たことだ。僕も、大学時代からアメリカへの短期留学、東洋医学の研修、端艇部でのオーストラリア遠征、ヨーロッパ留学と様々な機会を頂いた。現地には三田会があり、慶應の仲間として助けて頂いた。

今後、若い人材を育てていくために、我々はさらに進化が必要だ。僕が留学したスイスでは、アカデミアは社会的に評価されており、研究者は財政的にも業務的にも働きやすい環境が整備されていた。例えば自己の研鑽のために好きな場所で研修を行うサバティカルという制度があったり、フレッシュな頭でアイデアが湧くようにオンオフの切り替えが徹底されていた。ラボの仲間は弁がたつが働かないイタリア人、環境問題に厳しいドイツ人、人権問題で大議論を巻き起こすフランス人。僕では思いつかない斬新なアイデアを出してくれるのは彼らで、異なる文化や経験を有する人と共同研究をする意義を理解した。

慶應には多くの将来有望な人材が溢れている。慶應がより世界の中で羽ばたく人材育成が出来るように、これまでの経験を生かし微力を尽くしたい。

（感染症学　吉藤　歩　86回）